



1

①



2

②

ふじのくにケアフェスタ2018がツインmesse静岡にて開催されました。(図①)  
 介護のコツを伝える講演や介護技術コンテスト、介護の場で活躍する福祉機器の展示や関連イベント等々、これから介護の世界に進んでみようと考えている方や介護現場で活躍されている方、身近に介護が必要になった方などには大変有益な催しです。  
 会場内は図②のように介護福祉機器展示(紫色ゾーン)、介護現場からの魅力発信(水色ゾーン)、暮らしの中の介護(オレンジゾーン)、ステージ会場及び休憩コーナー(ピンクゾーン)、介護技術コンテスト会場(青緑ゾーン)に区分されています。



3

③



4

④

NPO法人「日本アニマルセラピー協会」ではセラピー犬とのふれあいが体験でき、大人も子供も癒されていました。(写真③)  
 社会福祉法人「楽寿会」では施設の内容やサービスの案内をしていました。(写真④)



⑤

5



⑥

6

高齢者専門宅配弁当「宅配クックワンツウスリー」では試食が実施されていました。(写真⑤)  
 介助犬・聴導犬育成団体NPO法人「ウェルフェアポート湘南」では介助犬ロツテとふれあうことができました。(写真⑥)



⑦

7



⑧

8

「(福)賛育会」では介護用機器の操作法を見せてくれました。(写真⑦)  
 福祉機器のコーナーでは電動カートが展示してありました。私も将来必要となりそうなので試乗してみましたが、操作も簡単で運転しやすく工夫されていて感心しました。(写真⑧)



⑨

9



⑩

10

株式会社「iSEED」では認知症老人徘徊感知機器が展示されていました。外出中でも在宅介護の認知症高齢者の行動をスマホで見守り、声掛けもできるシステムです。介護保険適用なので利用が増えているようです。(写真⑨)  
 株式会社「事務機器センター」では介護施設用コミュニケーションロボット「NAO」が目を引きました。すでにホテル受付や銀行窓口、各種イベントでの客引きとして利用されていますが、愛らしい見た目から、高齢者とのコミュニケーションツールとしても注目されています。(写真⑩)



⑪ [11](#)



⑫ [12](#)

介護技術コンテスト会場ではコンテスト開始にあたり、静岡県健康福祉部福祉長寿局介護保険課課長の浦田卓靖様からご挨拶がありました。(写真⑪)

現役介護職員が「食事」、「入浴」、「排泄」の3分野の経度・重度別に計6部門で介護技術を競い合うものです。各施設からエントリーした精鋭職員が順に紹介されていきます。(写真⑫)



⑬ [13](#)



⑭ [14](#)

取材時の事例は食事(重度)部門のコンテストが行われました。各コーナーには被介護者の人物像が表示されています。(写真⑬)

ベッドに寝たまま朝のモーニングケア(洗面、整髪、口腔清拭、食事の準備)を行う作業(10分間)がそれぞれ審査されます。(写真⑭⑮⑯⑰)



⑮ [15](#)



⑰ [16](#)



⑰ [17](#)



⑱ [18](#)

作業終了後は受験者、審査員、被介護者とのディスカッション(3分間)が行われます。(写真⑱)



⑲ [19](#)



⑳ [20](#)

次のエントリー職員が順次紹介されコンテストを受けていきます。(写真⑲)  
コンテスト会場ではエントリー職員が所属する施設の応援団や関係者の熱い視線を浴びながらコンテストが進められていきます。(写真⑳)

今回の取材は時間の関係でイベントの一部分しかご紹介できませんでしたが、毎年この時期に開催される本フェスティバルは介護に携わる者にとりましては大変有意義な催しであることは間違いありません。より多くの方々のご来場を期待しています。

#### ※参考

9月17日は「敬老の日」でしたが、県の調査では100歳以上の人は県内に1971人いて過去最多(9月14日現在)とのことです。10年前は1041人ですので2倍近く増えています。県内約157万世帯のうち65歳以上の一人暮らし世帯は4月時点で約21万件で全体の1割を超えるとのことです。

取材：静岡地区担当 生きがい特派員 竹内 章